

## ④自治体への非常通信提供

### 自治体要請に基づき、災害時に以下の通信回線を提供する予定

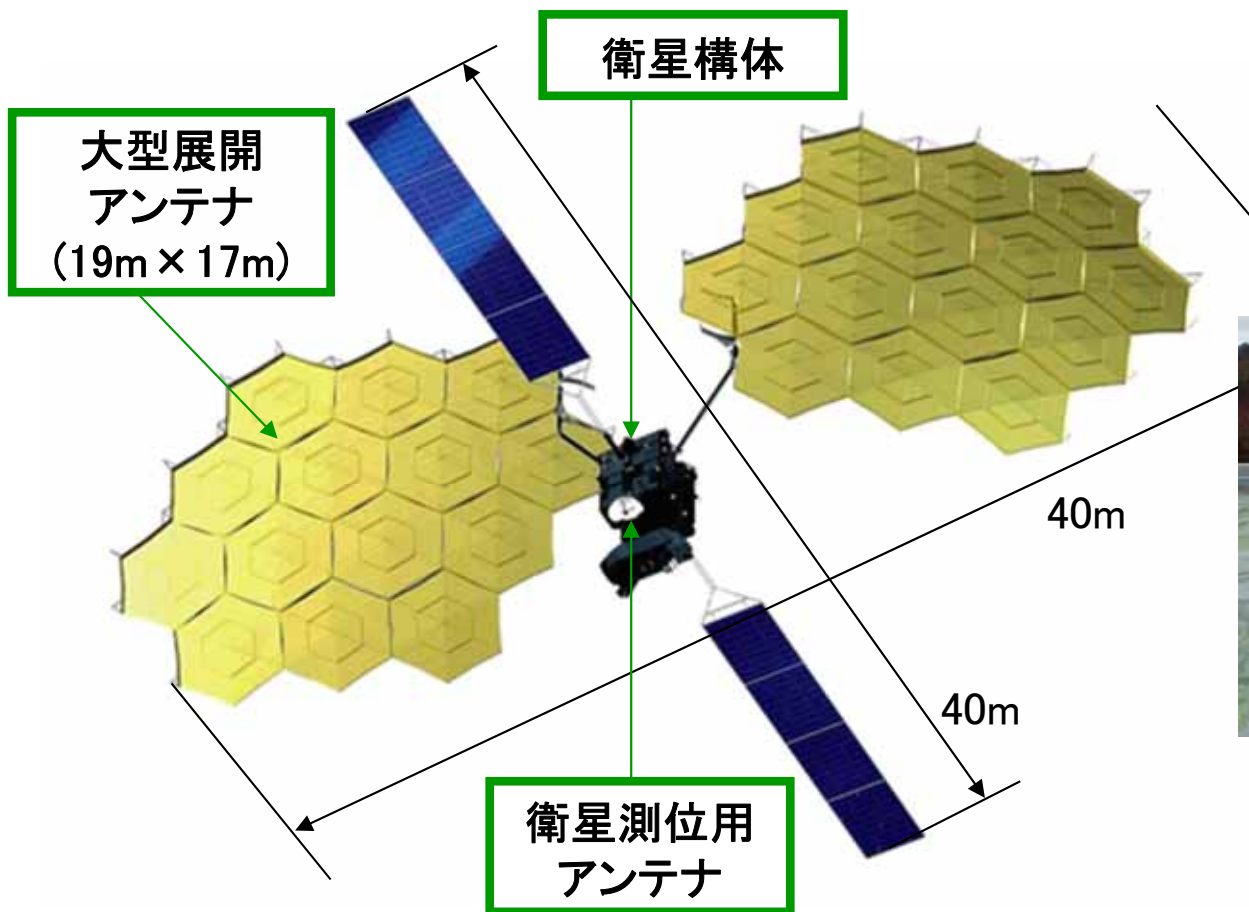
- ・被災市町村に設置された避難所と災害対策本部(県庁等)を結ぶテレビ会議、避難所でのインターネット環境の提供
- ・県庁等の被災時に、県のクラウド型防災データベースにアクセスする手段を提供
- ・県の情報ハイウェイの分断箇所の補完
- ・山間地等の被災状況の映像配信による共有

⇒画像や映像による情報共有を考慮すると、商用衛星回線(ベストエフォート2Mbps等)ではやや不安、という意見あり。

### ※留意点等

- ・地球局や操作要員の輸送手段は自治体側で手配していただく
  - ⇒ 迅速に地球局を輸送する手段の確保が大きな課題。自衛隊やNPO等のヘリコプターでの輸送について検討中。
- ・地球局設置は原則1自治体1台程度まで(「きずな」可搬型地球局は8台)

## 技術試験衛星Ⅷ型「きく8号」の概要



### 主要諸元

項目	諸元
打上時期	平成18年12月18日
軌道	静止軌道(146deg E)
設計寿命	3年(通信機器) 10年(衛星バス)



可搬型アンテナ(径90cm)  
上下:最大762kbps



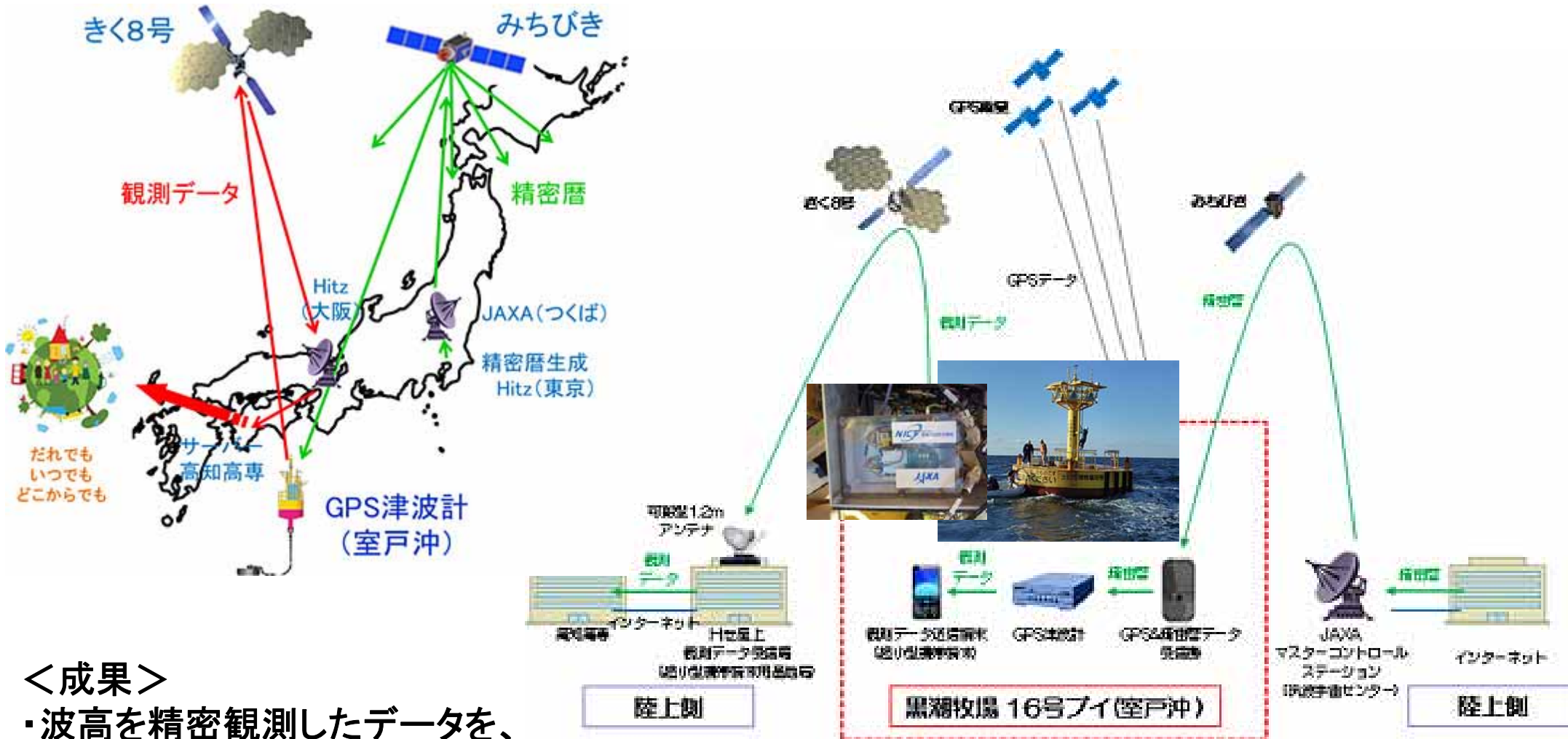
移動体通信用地上端末  
上:最大100bps  
下:最大12.8kbps



ポータブル端末  
W38 × D 29 × H 13 cm、約8.2 kg  
必要電力: 190W(最大)

# GPS津波計からのデータ伝送実験

平成26年6月に高知工業高等専門学校、東京大学地震研究所、日立造船株式会社、情報通信研究機構と共同し、高知県の黒潮牧場ブイ上に津波や波浪を観測するGPS津波計を設置し、観測に必要な精密暦データを準天頂衛星「みちびき」が送り、観測したデータを「きく8号」で陸上に伝送



## <成果>

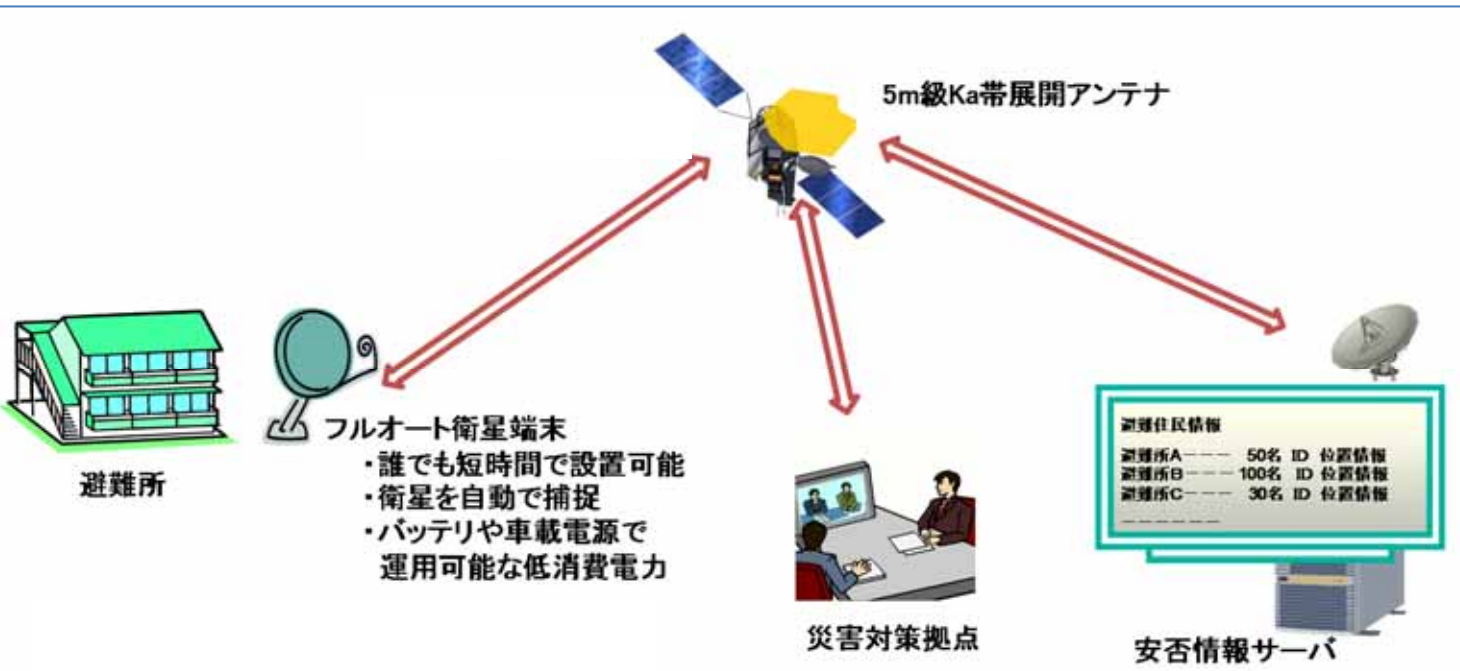
- 波高を精密観測したデータを、きく8号により陸上にリアルタイム伝送でき、衛星によるデータ伝送が大規模な津波発生時に非常に有効であることが実証できた

# 自動降灰・降雨量計の降灰等の監視データ配信

鹿児島県桜島の降灰エリアから土木研究所の自動降灰・降雨量計の降灰等の監視データを通信衛星経由でリアルタイムに配信できることを実証



# 4. 次期通信衛星について(災害通信衛星の検討)

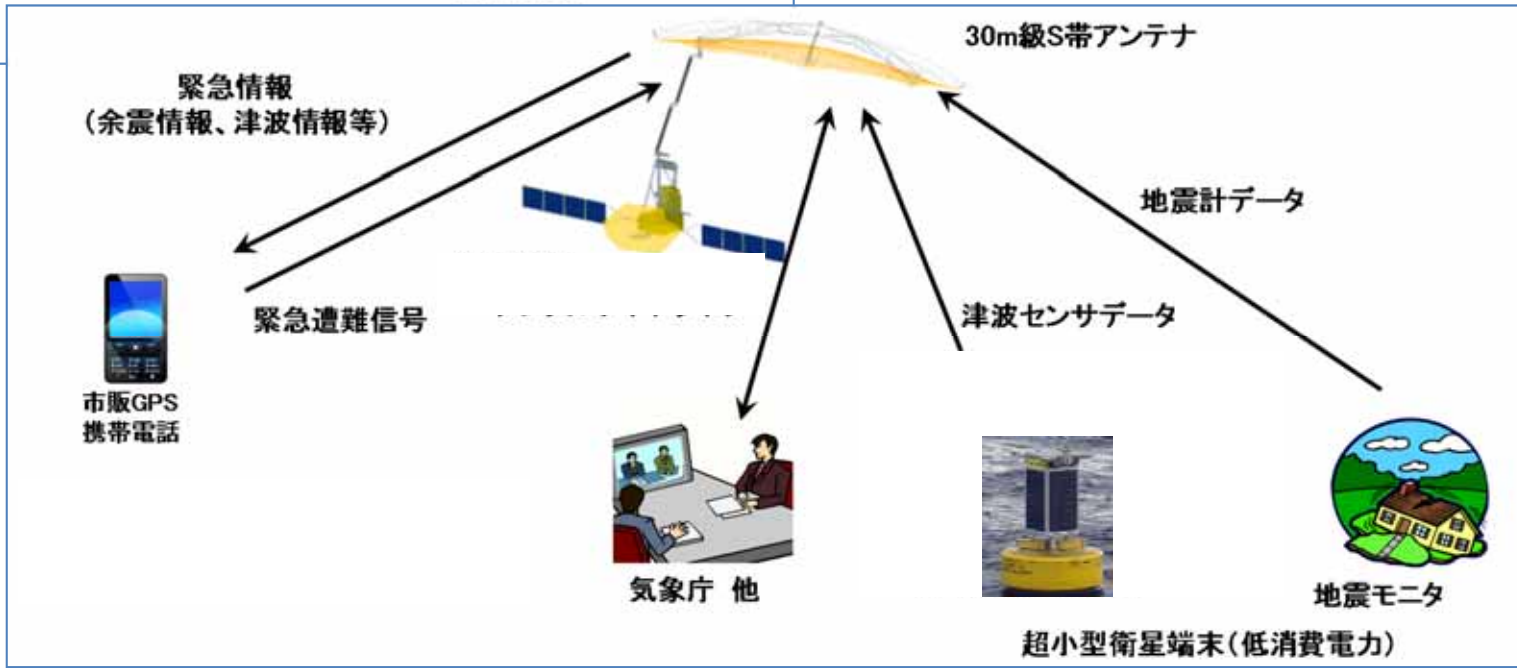


## 災害時のブロードバンド・インターネット接続環境の提供

- ✓ 被災地へ一人でハンドキャリア可能な通信設備
- ✓ 容易に通信環境を開設
- ✓ バッテリーや自動車電源で長時間利用可能な通信設備
- ✓ 無線LAN等のブロードバンド・インターネット接続環境を提供可能

## 携帯電話への緊急情報提供、緊急情報収集

- ✓ 災害時に緊急情報(余震情報、津波情報等)を衛星から直接、一般携帯電話に伝達



# 将来構想：即時災害監視予測警報システムの開発

